

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

### 事業名 学校給食地産地消推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 地産地消係 電話番号：058-272-1111(内4066)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,000 千円 (前年度予算額：16,000 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,000	0	0	0	0	0	0	0	16,000
要求額	16,000	0	0	0	0	0	0	0	16,000
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

学校給食において、銘柄米や野菜、果実、畜産物及び水産物等、安全・安心でおいしい県産農産物を児童・生徒に味わってもらい、県産農産物に対する愛着を促し、将来の消費者として県農業への理解を深める。

### (2) 事業内容

#### ア 内容

(ア) 県産農産物を食材とし、地産地消の推進、食の大切さや農業への理解を促進する学校給食を実施する場合、以下の助成を行う。

(イ) 県内産の米、小麦粉、大豆、きのこ、野菜、果実、畜産物及び水産物等の利用に際し、安価な県外産との価格差の一部を助成。

#### イ 事業主体

岐阜県農業協同組合中央会

#### ウ 対象校等

・公立小学校、公立中学校、県立定時制高等学校、特別支援学校、国立小学校、国立中学校、私立小学校、私立中学校等 計548校

・児童・生徒数154,181名 教員16,287名

### (3) 県負担・補助率の考え方

市町村立校：県 1/3、市町村 1/3、JA中央会 1/3

その他校：県 1/2、中央会 1/2

県産農産物の地産地消を推進するにあたり、児童・生徒の最も身近な学校給食での利用促進を図ることは、食農教育の観点からも重要であり、当該補助金に係る県負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

なし

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	16,000	学校給食への県産農産物の使用に対する補助
合計	16,000	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画

(2) 安心で身近な「ぎふの食」づくり

①地産地消県民運動の展開

給食への県産農林水産物の利用促進と子どもたちに対する食や農村への理解醸成

岐阜県食品安全行動基本計画

施策の方向3 将来にわたる安全な食生活の確保

1 県内産農畜産物の生産消費の推進

(2) 地産地消の推進

岐阜県食育推進基本計画

3つの基本方針

2 食の循環や環境に配慮した食農教育と地産地消の推進

### (2) 後年度の財政負担

支援の対象となる児童・生徒は毎年変わっており、継続的な取組みが必要。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	学校給食地産地消推進事業費補助金
補助事業者(団体)	岐阜県農業協同組合中央会 (理由) 県産農産物の生産振興、活用を推進している
補助事業の概要	(目的) 学校給食における県産農産物の活用推進 (内容) 学校給食の食材購入経費の一部を助成
補助率・補助単価等	定率 (内容) 市町村立校 1/3、その他校 1/2 (理由) 市町村立校は県、市町村、事業者で負担 県立校等のその他校は県、事業者で負担
補助効果	児童・生徒に県産農産物に対する愛着を促し、将来の消費者として、県農業への理解を深める
終期の設定	終期令和7年度 (理由) ぎふ農業・農村基本計画の期間

(事業目標)

- ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか
- ・ 学校給食における県産農産物の使用割合(金額ベース)の向上。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	終期目標	達成率
	(R3)	実績	目標	目標	(R7)	
① 県産農産物の使用割合 (金額ベース)	62%	60.3%	64%	65%	66%	91.4%

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	12,705千円	14,023千円	14,178千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>県産農産物の使用割合については、これまで関連団体の協力等により増加傾向であり、新型コロナウイルス感染症による急な休校で廃棄せざるを得なくなる環境の中でも県産農産物が継続的に利用され、目標は達成した。</li> </ul>
	指標① 目標：30% 実績：33.8% 達成率:113%
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>県産農産物の使用割合については、新型コロナウイルス感染症による急な休校で廃棄せざるを得なくなる環境の中、価格の高い県産農産物を買ひ控える動きがあり、地場産物の使用割合が低下した。</li> </ul>
	指標① 目標：30% 実績：27.2% 達成率:91%
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍においては、学校・学級閉鎖等に伴う学校給食の急な中止・再開に対応する必要があり、食材の安定した供給を維持するため、県外産農産物等の使用に切り替えるなどの対応をせざるを得なかったため、目標を若干下回った。</li> </ul>
	指標① 目標：63% 実績：60.3% 達成率：95.7%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</li> </ul>	
(評価) 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食で、安全・安心でおいしい県産農畜水産物を児童・生徒に味わってもらい、県産農畜水産物に対する愛着や県農業への理解を深めることは県農業振興の上で重要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</li> </ul>	
(評価) 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食に県産農産物を利用していることを児童・生徒及びその保護者に対して周知し、県産農畜水産物及び県農業への理解促進が進んでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</li> </ul>	
(評価) 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年、事業効果が高まるよう交付単価の調整を行っている。</li> </ul>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの事業の実施を通じて学校給食における米、小麦粉は、概ね県内産が使用されており、学校給食における利用促進が図れた。</li> <li>野菜・果実等の利用量は横ばい傾向であるため、引き続き、利用拡大を目指して実施していく。</li> </ul>
---

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> <li>県産農産物の地産地消を推進するにあたり、児童・生徒の最も身近な学校給食での利用促進を図ることは食農教育の観点からみても重要であり、支援対象となる児童・生徒は毎年変わるため、継続した取り組みが必要である。</li> </ul>
--